

小・中学校 授業改善リーフレット

チチブチャレンジ

すべての先生
たちのために



秩父市イメージキャラクター

ポテくまくん

秩父市学力向上推進委員会

秩父市教育委員会

秩父市学力向上「チチブチャレンジ」

秩父市学力向上ミッション

子どもたちの未来の幸せのために

- ・社会を生き抜く力を身につけることができるよう、子どもたちの「できること」「わかること」を増やす。
- ・子どもたちの伸びる姿を教師の喜びとして取り組む。

学力向上推進指針3つの柱

チャレンジ

Challenge

新しい学校教育への能力・資源開発

新たな方策への挑戦

- ・アクティブ・ラーニングの研究推進
- ・ICT教育の推進
- ・英語教育の充実

チェンジ

Change

現在のトレンドからの脱却

学力調査結果の変革

学力・学習状況調査等の活用（PDCAサイクルの確立）

ブラッシュアップ

Brush Up

取組のさらなる工夫・改善

指導方法の共有と磨き上げ

- ・教師力の向上
- ・児童生徒の学び支援
- ・学校、家庭、地域連携支援

わかる授業

- 学習課題、めあての提示
- まとめ、振り返りを位置づけた授業
- 児童生徒の学ぶ意欲を高める工夫
- 授業形態の工夫（ペア、グループ等学び合い）
- ユニバーサルデザインの導入
- アクティブ・ラーニングの推進

確かな学力

- 知識・技能（基礎学力）
- 思考力、判断力、表現力
- 課題発見能力
- 学ぶ意欲
- 問題解決能力
- 学びへの主体性
- 自分に合った学習方法の選択力

授業改善チャレンジ14



チャレンジ 1	教師の心得	P.3
チャレンジ 2	授業づくり	P.4
チャレンジ 3	学習規律	P.5
チャレンジ 4	特別支援教育の視点（ユニバーサルデザイン）	P.6
チャレンジ 5	授業の流れ（スタンダード）	P.7
チャレンジ 6	アクティブ・ラーニング	P.9
チャレンジ 7	板書の仕方とノート指導	P.10
チャレンジ 8	発問	P.11
チャレンジ 9	机間指導	P.12
チャレンジ 10	ICT の活用	P.13
チャレンジ 11	家庭学習	P.14
チャレンジ 12	読書	P.15
チャレンジ 13	学習評価	P.16
チャレンジ 14	各調査の活用	P.17

教師の心得

『時を守り 場を清め 礼を正す』

「時を守る」

- 1 授業開始時刻を守る。
○2分前には教室に行き、児童生徒の様子を見ながら開始時刻を待つ。
- 2 授業終了時刻を守る。
○45（50）分間でねらいに即した授業が展開できるよう、見通しを持ちながら学習を計画し実施する。
- 3 やるべきことを後回しにせず、即実行する。
○児童生徒に係わることを最優先する意識を持つ。

「場を清める」

- 4 整った学習環境をつくる。
○学習に役立ち、児童生徒の活動が見える掲示を行う。
○ゴミのない、いつでも清潔な教室環境をつくる。
- 5 授業準備を十分に行い、展開を整理する。
○1単位時間に、児童生徒に何をつかませるのかを明確にするための教材研究に十分時間をかける。
- 6 授業が始まる前に次時の教科書・ノートを準備させる。
○授業の終わりに、次の時間の準備を促す。

「礼を正す」

- 7 授業の始まりと終わりのあいさつをする。
○教員自ら進んで気持ちのよいあいさつをする。
- 8 時と場に合った言葉づかいをする。
○児童生徒に対して正しい言葉づかい、ていねいな言葉づかいを心がける。
- 9 謙虚な気持ち、謙虚な態度で接する。
○教員に間違いがあればそれを認め、しっかりと謝る。
○児童生徒個々の能力を把握し、それを認め、個に応じた指導を行う。

◎相手を思いやる心

- ・児童生徒に時間の意識を持たせるとともに、学習時間を保障する。
- ・教員の都合でなく、児童生徒を尊重することにより、教員への信用を積み上げる。
- ・物事の優先順位を考え、児童生徒の指導に集中し、臨機応変に指導する。

◎整理、整頓、清潔、しつけ、作法

- ・学校、教室の環境も教育の大きな要因と考え、児童生徒と一緒に環境を整える。
- ・授業のねらいを明確にし、それを達成するための授業展開を教員自身が整理してから授業に臨む。
- ・何事にも準備が必要であり、毎時間それを怠らないことで、学習することを意識できるようしつける。

◎よりよい人間関係づくり

- ・信頼関係のもととなるあいさつを、目を合わせて行い、授業へ気持ちを切り替えさせる。
- ・特に授業時の言葉づかいは、誰に対しても公平で、丁寧さを忘れない。
- ・自分の言動をいつでも客観的にみて修正することができるようにする。
- ・児童生徒一人一人に目を向け、一人一人の顔とよりよい成長を頭に浮かべながら指導を行う。

- 周囲に気を配れること
- 自分自身の成長のために仲間と切磋琢磨できること
- 常に謙虚であること
- 感動できる豊かな心を持つこと
- 感謝の気持ちを表せること



授業づくり

よい授業を行う10のポイント

1 チャイムで始まり、チャイムで終わる。

○授業時間を保障する。教師が時間を守ってこそ時間を守る児童生徒が育つ。

2 児童生徒から視線を外さず、表情の変化を逃さない。

○児童生徒の行動や発言を見逃さない。目的をもった机間指導を行う。

○指名する場合は「さん」をつけて指名する。

3 授業の開始が勝負！

○導入で、本字の学習への期待感と見通しをもたせる。

○授業の「ねらい（課題）」を明確にする。

4 1時間の学びの過程が分かる板書計画を立てる。

○板書は適切な省略と焦点化をする。

○板書には児童生徒の意見を生かす。

5 児童生徒の「活動」する時間をきちんと保障する。

○教師の話を聞く場面とノートに記入する場面を分ける。

○ノート記入や問題練習の時間を確保し、時間の保障する。

6 視覚的、効果的に内容を理解させる。

○ホワイトボードやプロジェクター、タブレット等を活用する。

7 明確な発問や説明、指示をする。

○ことばを精選し、しゃべりすぎない。

8 文章で、語尾まではっきりと発表させる。

○語形をしっかり習得させる。

○声の大きさの基準を示す。

9 意図的に指名発表させる。

○一部の児童生徒だけで授業を進めない。意図的な指名が必要である。

10 全員の思考を深める。

○多様な解決方法を示す。肯定的な表現で、具体的に話す。



学習規律

学習に集中できる環境づくりを

1 共通理解、共通実践

- ・全教職員が共通理解し、同じ方向を向いて指導する。共通実践が大事！
- ・教師自身が決まりを守る姿勢を示す。

2 学習規律の重点項目を絞る

- ・児童生徒の実態から、重点的に指導する項目を絞る。
- ・常に重点項目を見直し、レベルアップを図る。

3 誰もが分かるように指導

- ・学習規律を常に意識できるよう、掲示物等に表示する。
- ・ガイドブック等で教職員、児童生徒全員が確認できるようにする。



4 最初が大切

- ・学年の始めに、学習規律の指導を重点的に行うと、定着しやすい。
- ・学習規律を守ることが学力向上につながることなど、意義についても説明する。

5 チェックする機会を

- ・児童生徒自身が、自己評価をする機会を設定する。
- ・チェックした結果を表やグラフで表すなどし、「見える化」を図る。

6 粘り強く、繰り返す

- ・すぐに身につくものではない。日々、教師が意識的に根気強く指導する。
- ・注意ばかりではダメ！ できている子をほめて、注意を促すことも大切である。

7 小中連携、家庭・地域の協力

- ・小中で情報交換を行ったり、同じ目標を掲げたりし連携を図ると、効果が上がる。
- ・取組を通信等で積極的に発信し、学校・家庭・地域が同じ視点で指導する。

<学習規律のチェックリスト>

- ☐ 時間を守る ☐ 学習準備 ☐ 忘れ物 ☐ 服装
- ☐ あいさつ ☐ 言葉づかい ☐ 姿勢
- ☐ 返事 ☐ 発表の仕方 ☐ 声の大きさ
- ☐ 聞く態度 ☐ 私語 ☐ 鉛筆の持ち方 など

特別支援教育の視点 (ユニバーサルデザイン)

特別支援教育が培ってきた指導の方法や視点を活かし授業づくりを進めましょう。



誰にでも分かりやすい授業 どうしたらいいの？

授業のユニバーサルデザインの 7 原則

- すべての児童生徒が学びに参加できる授業
- 多様な学びに対し、柔軟に対応できる授業
- 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定が準備されている授業
- 欲しい情報が分かりやすく提供される授業
- 間違いや失敗が許容され試行錯誤をしながら学べる授業
- 現実的に発揮することが可能な力で達成感が得られる授業
- 必要な学習活動に十分取り組める課題設定がなされている授業

**特別な支援が必要な児童生徒の学びやすい授業は、
全ての子にとって学びやすい授業**

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり 12 のポイント

1 教室環境①

「場の構造化」

2 教室環境②

「刺激への配慮」

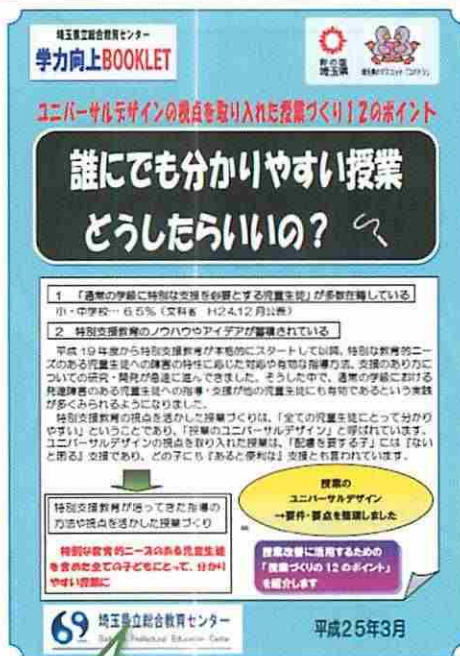
3 ルールの確立

「手順や行程」

4 生活の見通し

5 授業の見通し

6 授業の組み立て



通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒の指導・支援の充実とともに授業改善のポイントとして活用できます。

7 板書の工夫

8 集中・注目

のさせ方

9 指示の出し方

10 参加の促進

11 個人差への配慮

12 学級モラル

の形成

※県立総合教育センターホームページ「学力向上 BOOKLET」よりダウンロードできます。

授業の流れ (スタンダード)

授業の流れを教科ごとに統一することで、どの学年になっても同じ流れで授業ができ、子どもたちがスムーズに授業を受けられます。

すべての授業で、最低限あるべき流れ
「ちちぶミニмумスタンダード」

5 steps

課題やねらいの提示

【課題設定の工夫】

【導入や教具の工夫】

- ・おもしろそうだな。
- ・何ができるようになればよいかわかるな。
- ・なぜなんだろう？

1 つかむ



2 考える



3 深める 広げる



4 確かめる



5 振り返る



自分の考えをもつ時間

【思考時間の確保】

【思考ツールの活用】

【子どもの考えを引き出す発問】

- ・これまでどんな学習をしたかな。
- ・この手順で課題を解決していこう。
- ・文章、図、グラフを見よう。
- ・観察したり、調べよう。

学び合い・話し合い

【学習形態の工夫】

(ペア・グループ・一斉)

【話し合いスキルの提示】

【共通点、相違点の気づき】

【考えの共有】

【考えの検討からより深く自分で考える】

本時のまとめ

【本時の学習内容についてまとめる】

【子どものことばで

(教師が)まとめる】

- ・今日の授業ではこういうことがわかったぞ！
- ・今日の勉強のポイントがはっきりしたな。

本時の振り返り

【自己の学び（考え方や態度）について書く】

【振り返りシートの活用】

- ・～がわかった！
- ・～ということに気がついた。
- ・〇〇さんの考えを聞いて～と思った。
- ・次は～をやりたい。

◆ まとめの例 ◆

平行四辺形の面積は、「底辺×高さ」で求められることがわかった。

◆ 振り返りの例 ◆

〇〇さんの意見を聞いて、2つに分けて考えればよいことがわかった。次に同じような問題が出たら、私も同じように分けて考えてみたい。

授業の流れ（スタンダード）例：小学校算数の場合

段 階	具体的な学習活動例（児童の活動）
つかむ	1 問題の把握（どんな問題か、確かめよう） ・わかっていること をしっかりと確認させよう。 ・聞いているところ 2 答えの予想（答えを予想しよう） 3 課題またはめあての設定（今日の課題またはめあてを書こう） ・本時の問題から課題を導き、ノートに書かせよう。 4 解決の見通し（解決の見通しを立てよう） ・今までに学習したことを使えるか、似ている問題はなかったか、考えさせよう。
考える	5 自力解決（自力解決をしよう） ・「絵や図、言葉や文で表す」ことで自分の考えをまとめさせよう。 ・他の方法で考えさせよう。 ・実物の操作活動をさせよう。
深める	6 考えの説明（自分の考えを説明しよう） 学び合いタイム ・ペアやグループ活動を通して自分の考えを説明させよう。 7 練り上げ（よりよい考えを見つけよう） ・ペアやグループ活動、一斉授業で他者の考えを聞く時間を確保しよう。 ・自分の考えと他者の意見を比較させよう。（似ているところ、違っているところ）
確かめる	8 まとめ、練習（課題のまとめをしよう） ・本日の学習内容についてのまとめを全体で確認し、ノートに書かせよう。 ・適用問題を行おう。
振り返る	9 振り返り（ふりかえりタイムをしよう） ・本時の学び（考え方や態度など）をノートに書かせよう。

※まとめや振り返りの時間に共有を図りたい場合は発表させよう。

アクティブ・ラーニング

授業改善の重要な視点はアクティブ・ラーニング。指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、子供たちの思考を深め発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究しよう。

アクティブ・ラーニング (以下「AL」)の目的

児童生徒が主体的、協働的な学びを通して、社会で通用する汎用的能力を育てること

ALのもとになる 学び合いの概念

自己との対話を重ねつつ、他者と相互にかわりながら、自分の考えや集団の考えを発展させて、共に実践に参加していくこと

話し合いができる学級をつくろう

授業のねらいに合った話し合い方を工夫。

グループ単位の話合いから学級全体の話合い、さらには指名なし討論を目標に。

自分の意見を言うだけでは話し合いではない。他人の意見を聞いて批判・検討できる力をつけたい。

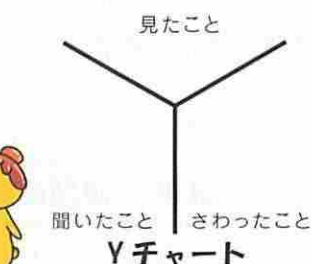
自分の意見をまとめるために、思考ツールをつかって考えを可視化することが効果的。

【思考ツールの例】

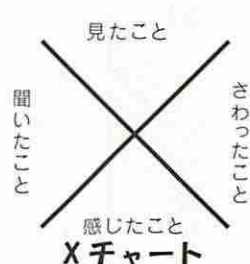
- ・付箋やカード…意見を出し合って、整理するのに便利。声に出して発表できない児童生徒も、カードに書くことで学習に参加できる。
- ・Yチャート・Xチャート…視点を決めて整理するときに便利。社会見学や観察等で、視覚・聴覚・触覚に分けて書くのがYチャート、それに自分の考えを加えたのがXチャートだが、ねらいに応じた独自の視点を設定してもよい。
- ・ステップチャート…手順や計画を考えたり、自分の主張の順番を考えたりするときに便利。
- ・イメージマップ…考えを広げたり、多様なアイデアを出したりするのに有効。



ステップチャート



Yチャート



Xチャート

「ふり返し」を大切に

ALで自己の変容を実感するために特に学習の「ふり返し」が重要である。

→「スタンダード」のページ(P. 7)の「まとめ」「振り返り」を参考に。

- ◆ AL実施のポイントは、とにかく埼玉県教育委員会作成の「アクティブ・ラーニング学習観 6則」を見て、やってみること。「6則」にも「まずできることから始めることが重要」とある。

板書の仕方とノート指導

「児童生徒がどのようにノートを写すのか」構成を考えて、板書しましょう。

板書の仕方



板書の意義

- ア 学習内容の要点・重点の整理となる。
- イ 学習内容の継続的指示となる。
- ウ 一目で、学びの思考過程が明らかとなる。

3分割で板書を構成する

導入・課題提示・見通し
学び合いの足跡
まとめ・適応問題・考察

4/10 3けたの数のたし算

P12 ① 365円のパイと、472円のケーキを買います。代金はいくらですか。

(式) $365 + 472$

学習問題と本時のめあてを区別

かだい

たし算の筆算のしかたは、どうしたらよいのだろうか。

児童の考え

事実・意見・順序

思考の過程

まとめ

たし算の筆算は、3けたになっても、位をそろえて、一の位からじゅんに計算します。

△ ① $\begin{array}{r} 243 \\ + 625 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 508 \\ + 471 \\ \hline \end{array}$

1色、ノートに書かなくてもよい色を決めておくと便利。

『かだい』プレートを作成し使用。青で囲む。学年に応じ「課題・めあて」も可。

『まとめ』プレートを作成し使用。赤で囲む。

じょうぎをつかおう。

ノート指導



ノート指導の意義

※色覚障害の児童生徒に対する配慮も必要

- ア 学習内容の理解の助け、定着させる。
- イ 考えの整理、深化、表現活動に役立つ。
- ウ 学習の軌跡となり、学びの連続性が生まれる。
- エ 学習状況の評価につながる。
- オ 家庭学習につながる。

導入・課題提示・見通し
学び合いの足跡
まとめ・適応問題・考察

4/10 3けたの数のたし算

P12 ① 365円のパイと、472円のケーキを買います。代金はいくらですか。

(式) $365 + 472$

行間をしっかりととる。

かだい

たし算の筆算のしかたを考えよう。

自分の考え

自分の考えは、消さずにのこす。

まとめ

たし算の筆算は、3けたになっても、位をそろえて、一の位からじゅんに計算します。

ふりかえり

1時間で学習したこと、感想、新たな疑問等を自分の言葉で表現する。

「かだい」と「まとめ」等は板書と同じ色で、同じように書く。

① $\begin{array}{r} 243 \\ + 625 \\ \hline 868 \end{array}$

直線は定規を使う。(筆算・分数・答え等)

② $\begin{array}{r} 508 \\ + 471 \\ \hline 979 \end{array}$

上下左右は2ます空け、ゆったり使う。

③ $\begin{array}{r} 327 \\ + 164 \\ \hline 491 \end{array}$

間違えは消さずに、他の所に書き直す。

④ $\begin{array}{r} 327 \\ + 164 \\ \hline 491 \end{array}$

① (式) $553 \div 7 = 79$

② $\begin{array}{r} 79 \\ 7 \overline{) 553} \\ \underline{49} \\ 63 \\ \underline{63} \\ 0 \end{array}$

「筆算」や「補助計算」を消さない。

答え 79人

発問

多様な考えを引き出す、学びに主体性をもたせる、思考の深まり、広がりを持たせるにはどうすればよいのでしょうか？教師の発問の工夫一つで授業は変わる！

- ・授業の冒頭から最後の振り返りの場面まで多様な場面でなされるもの
- ・本時のねらいに向かわせるためのもの（学びの文脈を創るもの）
- ・学習内容の確かな習得に向かわせるもの
- ・学習内容に即して、深く追求させ、発展させるもの
- ・子どもの多様な思考や心情を引き出し、深めさせたり、発展させたりするもの

よい発問の条件 『発問の基礎基本5つのポイント』

- 1 子どもにとって明瞭・明快な「発問」であること
 - ・わかりやすい言葉で、意味が明確な発問にしよう。
 - ・問いの方向性は「ねらい」に向かうためのものか確認しよう。
- 2 計画的・意図的な「発問」であること
 - ・学習の流れに沿って計画された発問をしよう。
- 3 興味・意欲を呼び起こす「発問」であること
 - ・子どもたちの考えようとする意欲を呼び起こす発問をしよう。
- 4 児童生徒の実態に合っている「発問」であること
 - ・一人一人への配慮がある発問をしよう。
- 5 タイムリーな「発問」であること
 - ・子どもの考えの筋道に応じて、発問のチャンスをとらえよう。

（工夫された発問でも、機を逸すると効果は半減してしまいます。）



「深い学び」のある授業にするために

アクティブ・ラーニング

その1 発問の方法を使い分けることで思考の広がり、深まりが期待されます！

①答えが限定的な発問（一問一答型）

②多様な考えを引き出す発問（オープン型）

→オープン型を通して様々な考えを引き出しながら、一問一答型を通して「理由」「根拠」「方法」等を問うていく。

その2 「ゆさぶり発問」で自分の考えを見直すことが期待されます！

①「みんなはこう言ったけど、この方法はどうか？」（あえて間違いを問う）

②「ほんとうにこれでいいのかな？」（もう一度考えを見返す時間を作る）

その3 子どもへの「問い返し」でより思考の深まりが期待されます！

①「それは、なぜですか？」（理由を問う）

②「どのようにしてですか？」（方法を問う）

③「この数字の意味は何ですか？」（意味を問う）

④「それはどこからわかりますか？」（根拠を問う）

⑤「これとこれはどう違うのですか？」（違いを問う）

発問のワザ

机間指導

机間指導は、児童生徒の実態を把握するための重要な機会です。指導と評価の一体化、授業改善に向け、机間指導を効果的に実施しよう。

- ・授業の中で、児童・生徒一人一人の個に応じた指導がもっとも効果的に行える機会
- ・全体の学習状況を把握し、課題や指示した内容・活動が適切かどうか判断できる機会
- ・一人一人の学習状況を把握し、つまずきや全体に紹介したい考えを発見する機会
- ・つまずいている児童・生徒への、個別指導ができる機会

机間指導の効果を上げるポイント

1 ねらい（目的）をもって、机間指導しよう

- あらかじめ「何を見取るのか」観点の視点を決め、計画的に回ろう。
- つまずきを早期に発見し、個に応じた指導を行おう。
- 意図的な指名をするには、誰をどういう順番に指名したら効果的かを考えよう。

2 座席表やチェックリストを活用しよう

- 記号等を工夫するなどして簡略化を図り、多くの子どもを見取ろう。
- T Tでは、相互に情報を交換しやすいよう、共通の視点で記入しよう。

3 ノートやワークシート等を工夫しよう

- 思考過程が一目で分かるような工夫をしよう。
- 進んだ子どもに対する手立ても準備しておこう。（追加の課題、プリント）
- 個別に対応できない場合は、事前にヒントカードを用意しよう。

4 時間を確保しよう

- しっかり指導ができる時間、子どもが思考できる時間を確保しよう。
- できるだけ机間指導の回数を多くしよう。（2回よりも3回）

5 気になる子へは、必ず声をかけよう

- 腰をかがめて、子どもの目線で接し、適切な支援をしよう。
- 1時間に必ず1回は、声をかけよう。

6 赤ペンでプラス評価をしよう

- 丸をつけたり、コメントを書いたりし、子どものよさを評価しよう。



全ての子どもの状況をしっかり見取りましょう。

机間指導というと、学習につまずいたり、遅れがちだったりする子の所で足が止まってしまうことがあります。まずは、全体を見回り、子どもが課題や指示をしっかりと把握でき、取り組んでいるかを確認してください。できていなければ、再度一斉授業で説明しましょう。実態の把握のため、できるだけ多くの回数、回ってください。支援が必要な子への対応と共にできている子どもへの働きかけも大切です。

ICTの活用

ICT機器は、ねらいを達成するための教具の一つです。授業のどの場面で活用するか、板書やノート指導、発表方法などに関連させて効果的に活用しましょう

1 興味・関心を高める 	● 注目させたいポイントに書き込み機能を使って印をつける。 ● 学習の導入時に関連するビデオや写真を見せ、興味関心を深める。 ● 実技教科など、動きを伴う指導の場面で、繰り返し視聴させたり、一時停止して拡大したりして見せる。
2 分かりやすく伝える 	● デジタルコンテンツなどを活用し、実際に見えにくい現象などを提示する。 ● 児童生徒の書き込んだノートを書画カメラで提示し、活用する。 ● 参考資料を提示し、板書にまとめを書くなど、適切に使い分ける。 ● 学習内容を理解する補助として、挿絵や写真、動画を映し出す。 ● デジタル教科書を活用し、拡大提示資料として、本時のねらいや活動内容、参考資料等を分かりやすく伝える。
3 明確に伝える 	● 動きを伴う実技教科などをビデオやタブレット等で記録し、模範になる動きと比較しながら改善点や工夫点について気づかせる。 ● 注目させたいポイントに書き込み機能を使って明示する。
4 児童生徒に考えさせる 	● 児童生徒が考えた内容を複数提示し、比較して見させる。 ● 数学（算数）で図形を動かして見せ、課題解決の見通しを持たせる。 ● 提示資料から、違いや共通点を見つけ、その理由を考えさせる。
5 実演でやり方を示す 	● 毛筆書写の実演を見せ、穂先の動きや文字の形を整えて書くことを意識させる。 ● 調理実習での刃物の使い方や、美術・技術（図画工作）での細かい動きに注目させ模範提示を行う。 ● 方眼グラフや分度器、定規等を拡大表示し、活用する。
6 児童生徒が発表する 	● 児童生徒の考え方を比べながら討論させるために、ノートをタブレットで撮影し、比較提示する。 ● 児童生徒の考えたことや伝えたいことを拡大表示する。 ● 数学（算数）で実際に立体の特徴を捉えるなど、問題把握や比較検討の場面でデジタル教材を活用する。 ● 話す内容に合わせて映像を指し示しながら話し、線で囲んだり矢印を引きながら伝える。
7 授業内容を振り返る 	● 着目させたい言葉に線を引くことで視覚的に捉えさせる。 ● 学習内容を保存し、めあてに即した振り返りから次時につなげる。 ● 動きを伴う実技教科の授業で、タブレット等で自分の動きを記録し課題を意識させながら振り返る。 ● 理科などで、実験や実習の過程や結果を記録し、振り返る。
8 知識・スキルの定着 	● 漢字や計算、単語などの学習事項にテンポよく、多く触れさせる。 ● 隠された単語を補いながら音読させ、知識を定着させる。 ● 細かな動きのある内容を大きく映し出し、スキルを習得させる。 ● 語学における反復的な発声練習に活用する。

家庭学習

学力向上には家庭学習の習慣化は欠かせません。「家庭学習のてびき」等で具体的な取組方法を示し、家庭と連携して落ち着いて学習できる環境づくりを進め、自律的な学習習慣を確立しましょう。

家庭学習は大きく ①宿題 ②音読 ③自主学習 ④読書 に分けられます。小学校低学年～中学年は、家庭学習の習慣をつけさせましょう。小学校高学年～中学校は、自分の課題や目的に応じた自主学習ができるようにしましょう。

1 一日の学習時間（目安）

- ① 小学校 $10 \times \text{学年} + 10$ 分
- ② 中学校 $10 \times (\text{学年} + 6) + 10$ 分
(学校独自に学習時間を設定している場合があります。)

2 取り組む順番（例）

- ① **宿題**：学校の宿題が一番先。（連絡帳を見て）点検。
- ② **音読**：小学生は家の人に聞いてもらい、印をもらう。
- ③ **自主学習**：自分で考えた学習。予習・復習等。中学生はこれが中心。
- ④ **読書**：毎日読書。時間やページを決めて行う。

スマホ・ケータイは手の届かないところに置く！
テレビやゲームは消してやる！
継続は力なり。毎日、時間を決めて計画的にやるぞ！

自主学習取り組みの工夫

見開き2ページにまとめさせる。ローマ字日記を書く。平日は予習・復習・宿題、休日は問題集・ワークのようにパターンをかえる。中学生は復習で問題集、ワークにできるだけたくさん取り組む・・・などなど



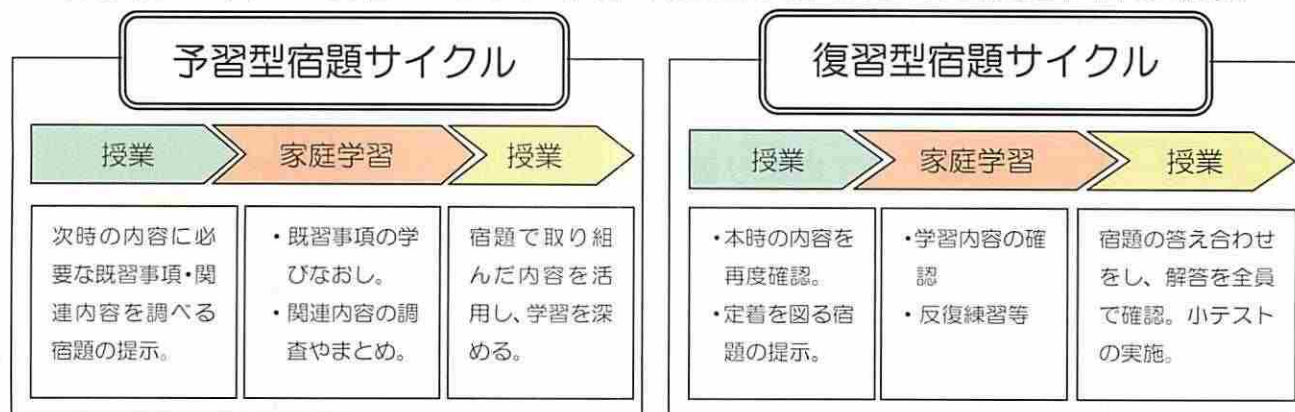
3 取組の工夫

- ① **始めが大切**：学期始めには家庭学習の仕方をしっかり確認する。
- ② **内容の向上**：よいノートを掲示や通信で紹介し、取組の参考にさせる。
- ③ **やる気UP**：フィードバックとしてコメントを書いて児童生徒の意欲を高める。
- ④ **チェック**：短時間に全員にコメントは書けません。こんな工夫もあります。

チェックの工夫

- ・ノートを2冊準備し、一日おきに使用させ、コメントを書く。
- ・学級の半分ずつコメントを書く。（2日に一度はコメントを書く目安で）
- ・児童生徒が、どうしても見てほしいというノートには、付箋を貼るなどの約束を作っておく。
- ・コメントが書けなくても、ノートを見た印は必ずつけて返しましょう。

4 各教科や単元の特性に応じ、学習の見通しをもたせた家庭学習の取組



読 書

読書は語彙・言語能力の発達、論理的思考力が身につく、想像力・感受性が豊かになるなど、良いことがいっぱい。学力の素地は読書から！！

1 学校で読書活動の充実を図る

① 朝読書の充実を図る

- みんなで読む。
- 毎日読む。
- 好きな本を読む。
- 静かに落ち着いた時間を作る。
- 担任と一緒に読書を行う。



読書の
環境
づくり

② 学校において読書に向けた取組を行う

- 絵本のよみきかせの時間の設定。(小学校)
- 読んだ本のポップ制作や読書新聞の作成。(他者へ紹介活動)
- 学校図書館利用の充実を図る。(司書教諭補助員との連携を図る)
- 国語科で学習した題材の作者の本が読めるコーナーを設ける。
(並行読書、関連図書のすすめ)
- 国語科等でビブリオバトルの実施。
- 新聞記事を利用した学習活動。(NIE)
- 秩父市立図書館との連携。

読書の
きっかけ
づくり

2 家庭における読書を推奨する

① 家庭との連携も大事

- 少し早く起きて、家族で読書。
- 親が本を読んでいる姿を見せる。
- 家の本棚に親が読んだ本を置く。

子どもたちや、保護者に読書することの良さや効果を知ってもらうことが大事。

② ゲームより読書！スマホより読書！

- 毎日決まった時間に読書を行う。
- 1日に10分でもいいから毎日読む。
- どこでも読めるように本を持ち歩く。

家庭での読書を勧める。
保護者の意識を変える。

学習評価

児童生徒の学習評価から授業評価を行い、指導方法を振り返り授業改善を日常的に進めましょう。

学習評価は、児童生徒個々の学力把握のために行うものです。学習評価の結果を学習指導に活用していくことが大切です。学習評価は、普段の授業の中で計画的、効率的に行うことが重要です。

Plan

ねらいや評価規準を明確にした指導計画等の作成

授業で評価を行うには、評価規準にあわせて評価方法を決めて、学習活動を考えていくことが必要です。児童生徒の思考や発言・行動をどのようにして見取るのか、学習活動のどの場面で児童生徒の変容を見取るのか、「努力を要する」児童生徒への支援を想定し、指導計画を作成していきます。

Do

授業の実施

「B おおむね満足」の実現が困難な児童生徒に対して適切な手立てを行います。

授業づくりのポイント

- ☐ 学習意欲を喚起する手立てが工夫されていますか？
- ☐ 自ら考え、判断し、表現する場面が設定されていますか？
- ☐ 学習したことを振り返る場面が設定されていますか？

児童生徒の様子から、その意味を把握することも大切です。寝ていたり、おしゃべりをしたりなど、なぜそのような行動を取るのか原因を分析し、どのような手立てを行えばよいか考えることも授業改善につながります。

Check

評価

児童生徒の学習状況の評価を行います。目標を実現することができたかを振り返り、評価方法、学習活動、教材・教具などが児童生徒の実態に合っていたかを見直していきます。

振り返りのポイント

- ☐ 目標を実現することができましたか？
- ☐ 評価規準は適切でしたか？
- ☐ 評価方法の妥当性、信頼性はありますか？
- ☐ 努力を要する生徒への手立ては適切でしたか？
- ☐ 活動の内容と時間は適切でしたか？
- ☐ 効果的に教材・教具を活用できましたか？

児童生徒が目に見える形で評価することも大切です。ノートやプリントに、シールやスタンプなどで印をつけることで、達成状況を伝えることができます。

Action

授業・指導計画の改善

評価結果を分析して授業や指導計画を改善します。また、評価方法についても評価場面や評価時期、評価方法など改善を図ります。

評価の改善のポイント

- ☐ 学習後（総括的）の評価だけでなく、学習前の児童生徒の状況把握（診断的）や学習過程（形成的）など評価場面を工夫する。
- ☐ 学期末や学年末だけでなく、目的に応じて、単元ごと、単位時間ごとなど評価する時期を工夫する。
- ☐ 評価方法は、ペーパーテストのほかにも、観察、作品、質問紙、ノート、レポート、実技などを用いて工夫する。

各調査の活用

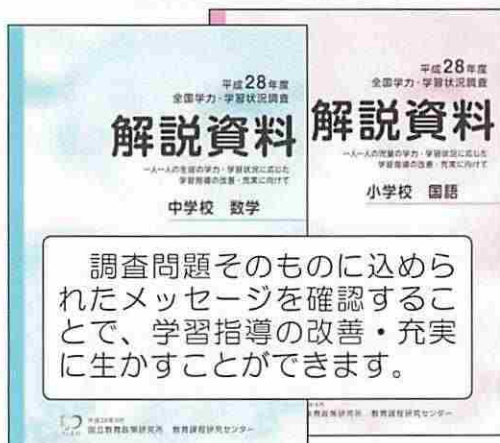
各調査をPDCAサイクルで十分に活用し、結果分析から成果と課題を導き出し、授業改善・校内研修の見直し等、学力向上への手立てを図っていきましょう。

全国学力・学習状況調査（小6・中3）

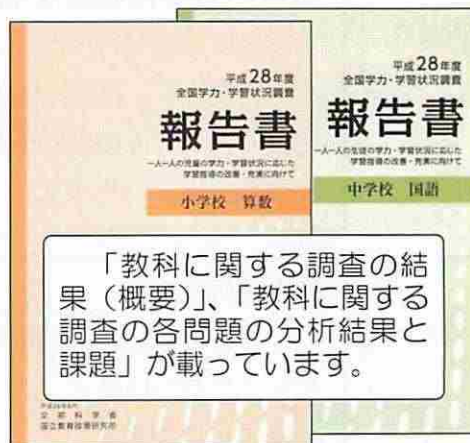
【調査問題】



【解説資料】



【報告書】



【授業アイデア例】

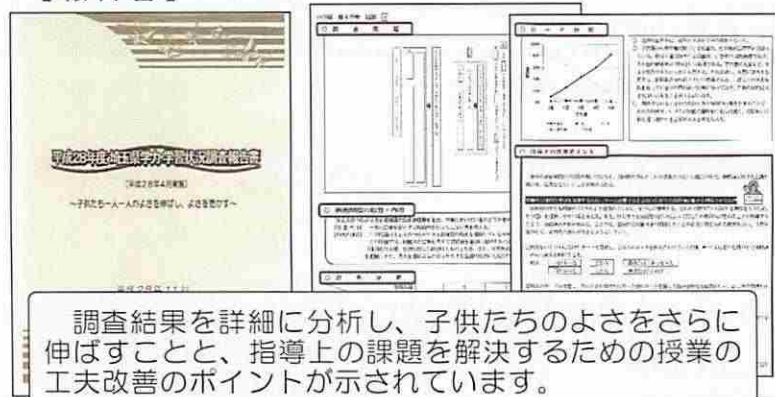


「一人一人の児童生徒に結果を返し、学習指導の改善に生かす」という調査の趣旨について再確認するとともに、全ての教員が各種学力調査の内容を知り、問題を解いてみるのが大切です。調査対象学年や教科の担当者だけでなく、全ての教員が問題を確認することにより、授業改善につながります。

各種資料は、国立教育政策研究所ホームページに載っています。

埼玉県学力・学習状況調査（小4～中3）

【報告書】



【授業アイデア集】



埼玉県学力・学習状況調査は、「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という今までの視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加え、平成27年4月からスタートしました。子どもたちの成長していく姿が見える、全国でも初めての調査です。